

～アメリカ薬剤師研修プログラム報告書～

<研修1日目>

AM：講師Weber 教授・Dr.TeresaO`Sullivan.Pharm.D

「アメリカにおける薬学教育」

「卒業後のプロフェッショナルとして実社会で活躍している薬剤師の生涯教育プログラム」

「臨床薬剤師としての学習カリキュラム」「臨床薬剤師の生涯教育と実践」

ここではアメリカの薬学教育のシステム・薬局や薬剤師の役割・薬剤師と医師との共同協定(CDTAs)などについての講義を受けました。日本の薬薬連携などとはとても大きな差があり医師と薬剤師が共同で医療を行っている印象を受けました。

PM：

・ワシントン大学メディカルセンター訪問

ワシントン大学内にある総合病院を訪問し、病院内での薬剤師の働きやテクニシャンとの分業などについて見学しました。薬剤師は一切調剤しないで、監査や医療計画を立てるのがメインの仕事で、とても驚きました。

・Walgreen 訪問

アメリカを体表する大型チェーンドラッグストアを訪問し、豊富な品ぞろえ・管理された社員教育・消費動向・店舗内にある薬局を見学しました。アメリカには薬価というものが存在しないので(卸売価格はある)Walgreenのような大型店では大量に仕入れることにより安く薬を提供しているそうです。

<研修2日目>

AM：講師ダン・ダニエルソン(元メディコで現プリメラ)

「メールオーダー薬局とPBM」

メールオーダーの会社と仕組み、PBMの仕組みについて研修しました。文字通りメールで送られてくる処方箋を調剤・監査して宅配便で送るといった日本では考えられないようなものでしたが高齢者や障害者の方にとってはとても便利だと感じました。

講師キャラン・ドーソン助教授

「薬剤師による患者とのコミュニケーションテクニック」

薬剤師による患者との効果的なコミュニケーションテクニックについて研修

PM：講師ビバリー・シェルダン薬剤管理部長

「ハーバービューメディカルセンター見学」

薬剤部を中心に院内を見学。それぞれの科ごとに小さな薬剤部（plant）があり中央に大きな薬剤部があるという構造でした。駆け足での見学でしたので、あまり詳しくは見学できませんでした。

「ケリーロスファーマシー社経営のメールオーダーファーマシー見学」

実際に MOP を見学。メールにより配送の便宜・利便性がアップしていて、主に Refill の処方箋などを受け付けていました。実際に日本でいうクロネコヤマトのような会社が薬を配送していたので驚きました。

< 研修 3 日目 >

AM：講師ジェフ・ロシヨンワシントン州薬剤師協会能力開発部長

「医師との共同による薬剤治療」

医師の処方の中で医療費の削減のため薬剤師による代替医療（ジェネリック）について研修。

患者の加入している保険の種類によって処方できる薬剤や金額が違うことなどを学びました。

「アメリカ薬剤師とのオープンディスカッション」

PM：・カタマンズ薬局（コミュニティ薬局）訪問

実際に薬剤師がインフルエンザを接種するところなどを見学

・バーテルドラッグ訪問

日本人でアメリカの薬剤師として活躍されているミユキ・アンダーソンさんからお話を聞く。内容は研修 1、2 日目で受けたものと同様。

研修 4 日目以降は自由行動や移動

< 感想 >

アメリカの医療は制度的に自由競争で市場の原理が導入されている感じを強く受けました。端的に言うとお金を払えば払うほどもらえる薬の選択肢が広がり、そうでないと少ない選択肢の中から選ばなければいけないのが現状だそうです。もちろん貧困層や高齢（65 歳以上）を救済するメディケア・メディケイドという制度はありましたが、それでも裕福な人とは受ける医療に差がありそうでした。

またアメリカの医療制度は日本よりもとても複雑で州ごとによって異なる点があるのですべてを把握するのはとても難しいと感じました。

薬剤師の業務としては個人的にはテクニシャンの存在と Refill の制度がとても印象に残りました。特に Refill は今後日本でも導入される可能性が少なからずありそうなので、しっかりとフォローしていきたいと感じました。